

WEBアンケートから見る・考える「こうちの男女共同参画」
「第7回 セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（S R H R）」
集計結果概要（実施期間：令和7年9月1日～令和7年10月31日）

〈アンケート実施期間と方法〉

令和7年9月1日～令和7年10月31日 Google フォームを使用

〈回答者総数〉

214名 県内 204名 (95.3%)、県外 10名 (4.7%)

【性別毎の割合】

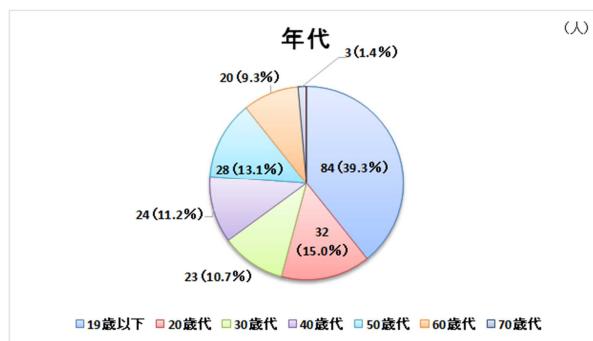
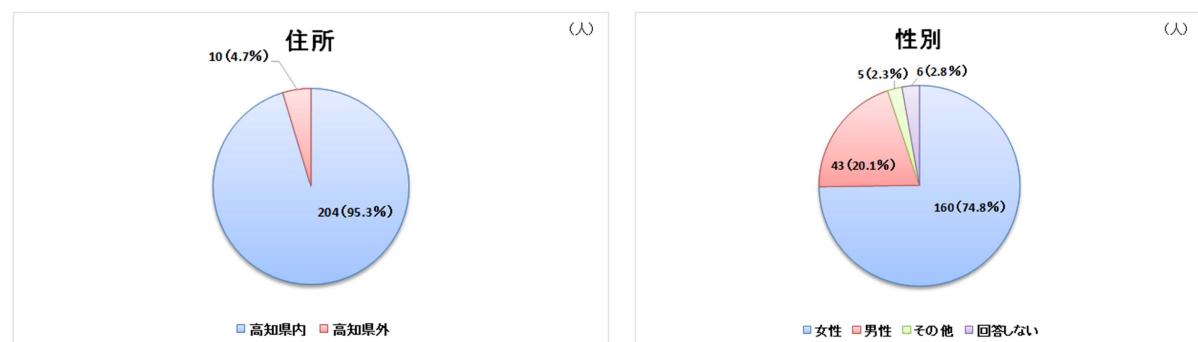
女性 160名 (74.8%) 男性 43名 (20.1%) その他 5名 (2.3%) 回答しない 6名 (2.8%)

【年代毎の割合】

19歳以下	84名 (39.3%)	20歳代	32名 (15.0%)	30歳代	23名 (10.7%)
40歳代	24名 (11.2%)	50歳代	28名 (13.1%)	60歳代	20名 (9.3%)
70歳代	3名 (1.4%)	80歳以上	0名 (0.0%)		

【回答者について】

性別毎の割合では、女性の割合が約7割で、10代～70代まで幅広い年代の方からの回答をいただきました。



ソーレ WEB アンケート

「第7回 セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (SRHR)」集計結果

アンケート実施期間：令和7年9月1日～令和7年10月31日

【回答者について】

年代（全体）

上段：人

年代	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
人数	84	32	23	24	28	20	3		214
割合	39.3%	15.0%	10.7%	11.2%	13.1%	9.3%	1.4%		100.0%

(注) 割合は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100とならない場合があります。

性別

上段：人

性別	女性	男性	その他	回答しない	計
人数	160	43	5	6	214
割合	74.8%	20.1%	2.3%	2.8%	100.0%

(注) 割合は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100とならない場合があります。

性別（年代分類）

上段：人

年代	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
全体	84	32	23	24	28	20	3		214
割合	39.3%	15.0%	10.7%	11.2%	13.1%	9.3%	1.4%		100.0%
女	75	16	17	13	21	16	2		160
割合	46.9%	10.0%	10.6%	8.1%	13.1%	10.0%	1.3%		100.0%
男	8	13	4	11	4	2	1		43
割合	18.6%	30.2%	9.3%	25.6%	9.3%	4.7%	2.3%		100.0%
その他	1	1	1		1	1			5
割合	20.0%	20.0%	20.0%		20.0%	20.0%			100.0%
回答しない		2	1		2	1			6
割合		33.3%	16.7%		33.3%	16.7%			100.0%

(注) 割合は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100とならない場合があります。

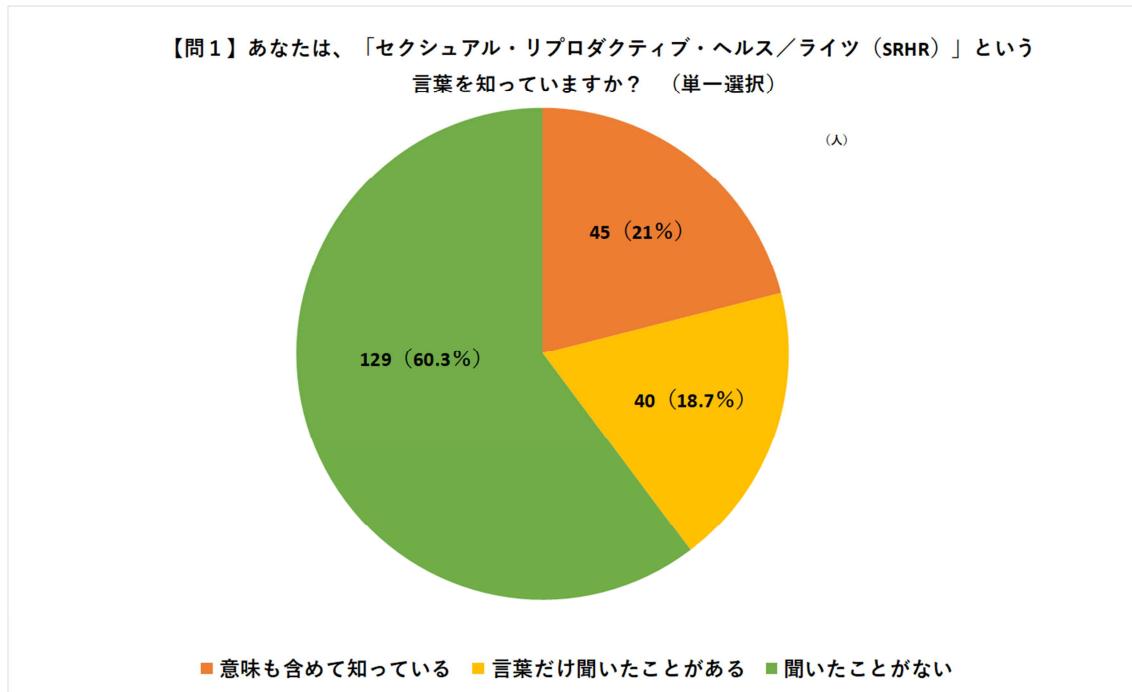
住所

上段：人

住所	高知県内	高知県外	計
人数	204	10	214
割合	95.3%	4.7%	100.0%

(注) 割合は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100とならない場合があります。

【問1】あなたは、「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツ (SRHR)」という言葉を知っていますか？（単一選択）

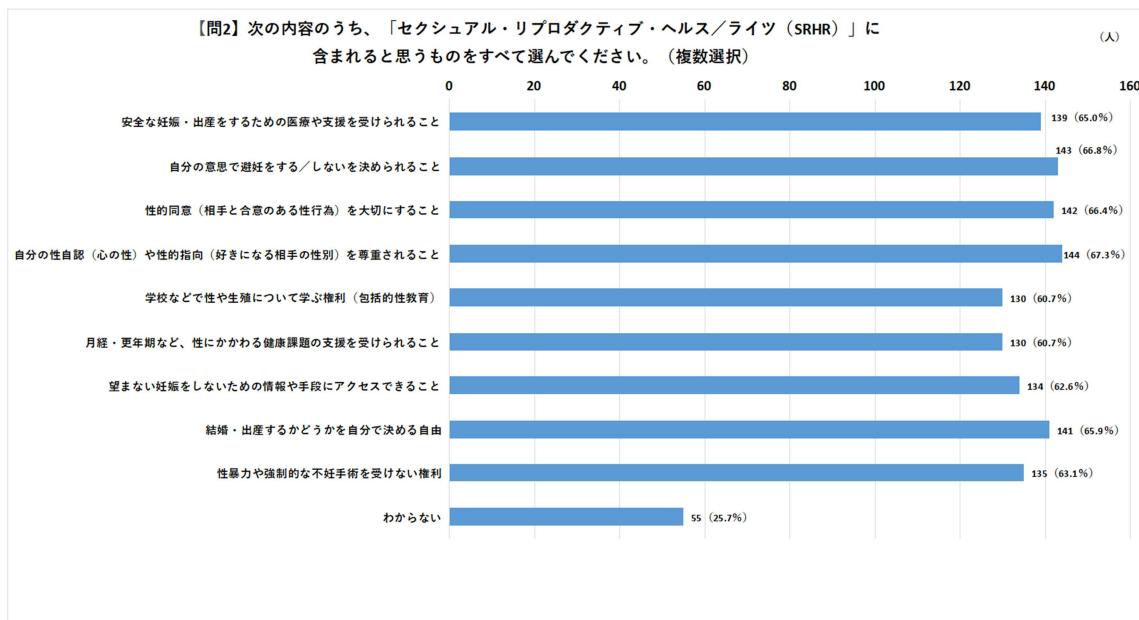


意味も含めて知っていると答えた人は 45 人 (21%)、言葉だけ聞いたことがある人は 40 人 (18.7%)、聞いたことがない人は 129 人 (60.3%) でした。約 3 人に 2 人が「聞いたことがない」という結果でした。

【問2】次の内容のうち、「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（SRHR）」に含まれると思うものをすべて選んでください。（複数選択）

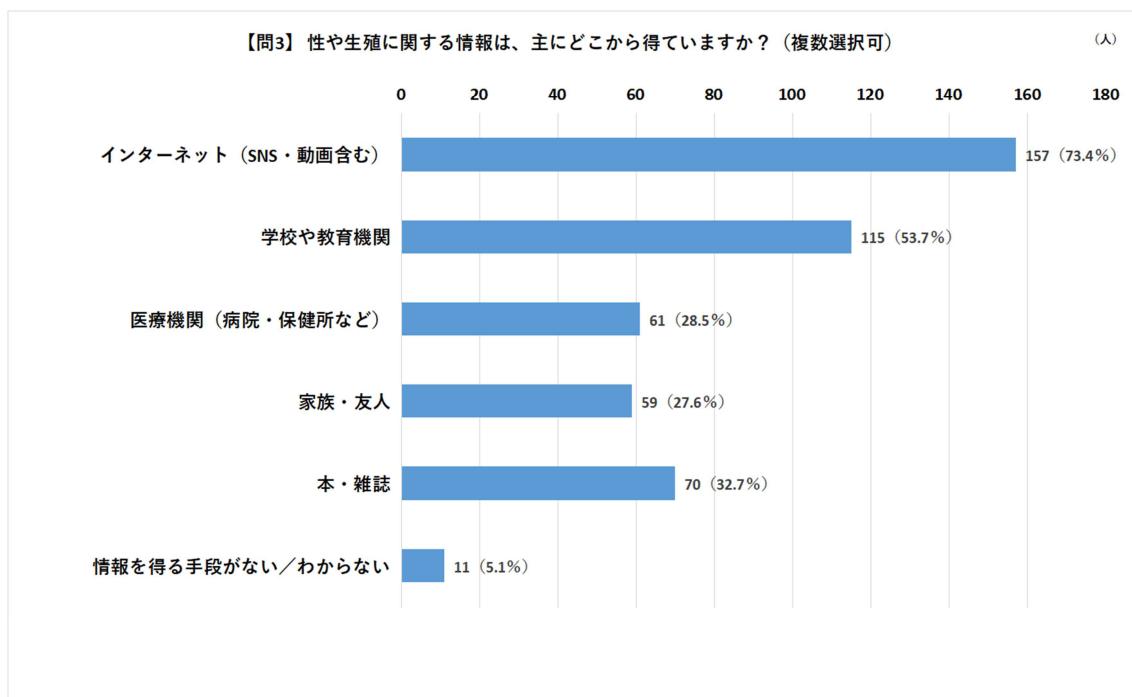
〈選択肢〉

- 安全な妊娠・出産をするための医療や支援を受けられること
- 自分の意思で避妊をする／しないを決められること
- 性的同意（相手と合意のある性行為）を大切にすること
- 自分の性自認（心の性）や性的指向（好きになる相手の性別）を尊重されること
- 学校などで性や生殖について学ぶ権利（包括的性教育）
- 月経・更年期など、性にかかわる健康課題の支援を受けられること
- 望まない妊娠をしないための情報や手段にアクセスできること
- 結婚・出産するかどうかを自分で決める自由
- 性暴力や強制的な不妊手術を受けない権利
- わからない



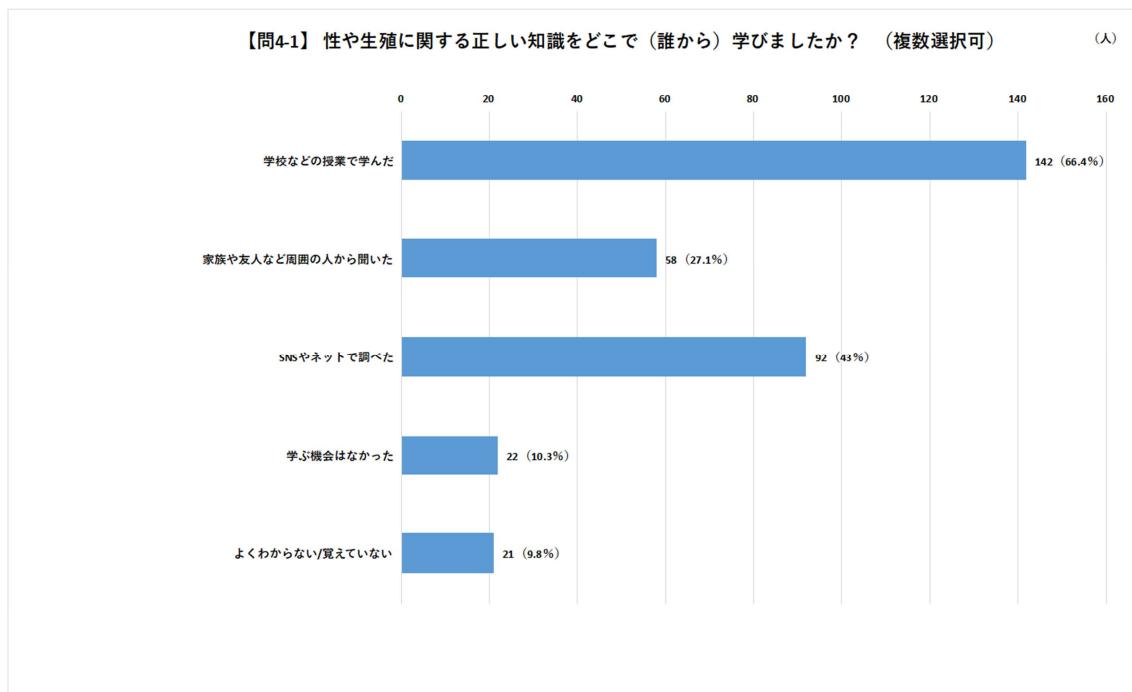
最も多く選ばれたのは「自分の性自認や性的指向を尊重されること」144人（67.3%）で、「自分の意思で避妊をする／しないを決められること」143人（66.8%）や、「性的同意を大切にすること」142人（66.4%）、また「安全な妊娠・出産のための医療や支援を受けられること」、「結婚・出産するかどうかを自分で決める自由」など、多くの項目で6割前後の回答がありました。一方で、「わからない」と答えた人は、55人（25.7%）でした。

【問3】性や生殖に関する情報は、主にどこから得ていますか？（複数選択可）



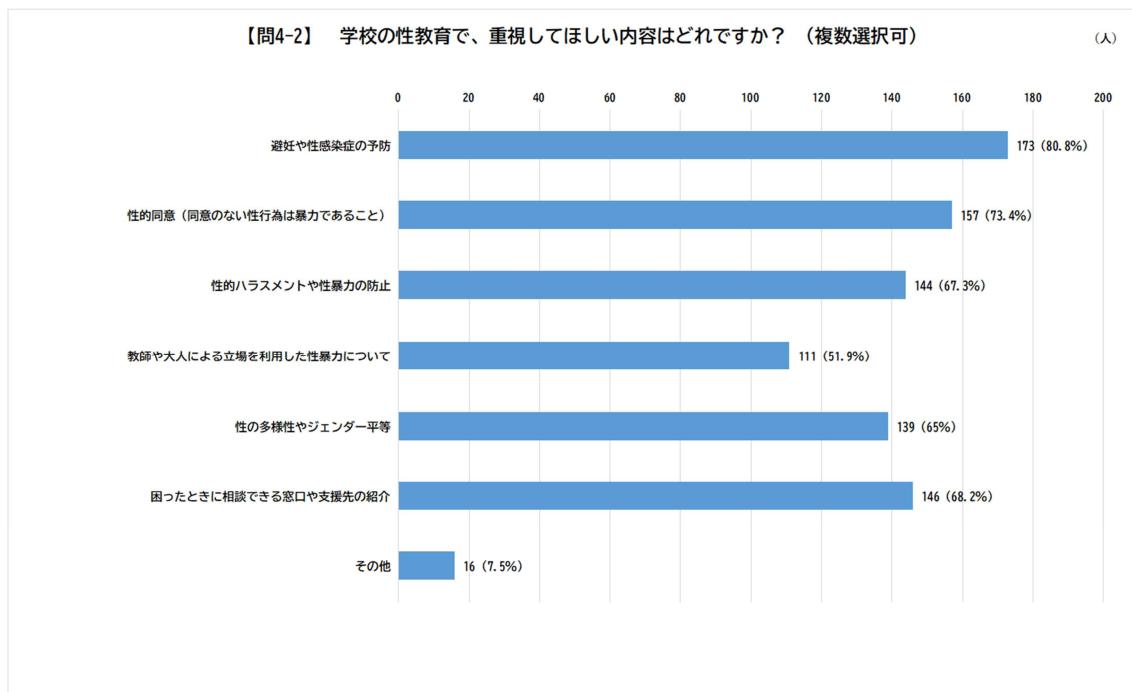
最も多かったのは「インターネット (SNS・動画含む)」で157人 (73.4%) に上りました。
次いで「学校や教育機関」115人 (53.7%)、「本・雑誌」70人 (32.7%) が続きました。
一方で、「医療機関」61人 (28.5%) や「家族・友人」59人 (27.6%) から得ている人は3割に満たず、「情報を得る手段がない／わからない」との回答は11人 (5.1%) でした。

【問4-1】性や生殖に関する正しい知識をどこで（誰から）学びましたか？（複数選択可）



「学校などの授業で学んだ」と回答した人が最も多く 142 人 (66.4%) でした。次いで、「SNS やネットで調べた」が 92 人 (43.0%)、「家族や友人など周囲の人から聞いた」が 58 人 (27.1%) となっています。一方で、「学ぶ機会はなかった」と回答した人は 22 人 (10.3%)、「よくわからない／覚えていない」は 21 人 (9.8%) でした。

【問4-2】学校の性教育で、重視してほしい内容はどれですか？（複数選択可）



「避妊や性感染症の予防」と回答した人が最も多く 173 人 (80.8%) でした。

次いで、「性的同意（同意のない性行為は暴力であること）」が 157 人 (73.4%)、「困ったときに相談できる窓口や支援先の紹介」が 146 人 (68.2%)、「性的ハラスメントや性暴力の防止」が 144 人 (67.3%)、「性の多様性やジェンダー平等」が 139 人 (65.0%) と続きました。また、「教師や大人による立場を利用した性暴力について」も 111 人 (51.9%) が挙げています。

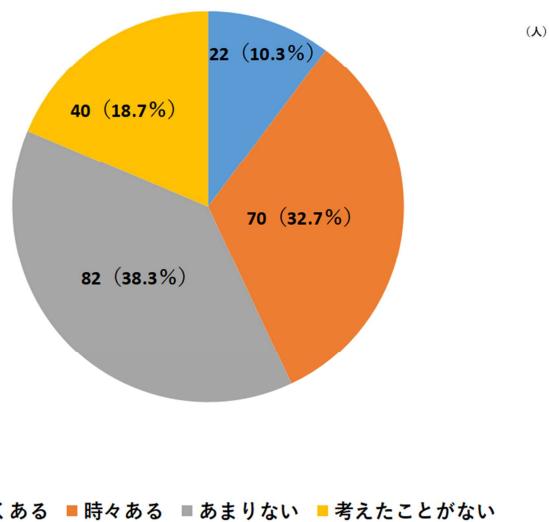
「その他」の回答結果は、以下のとおりです。

- ・正しい性交について
- ・性に対して恥ずかしがったり、茶化したりせずに理解することが大切だと教えてほしい
- ・命に対する責任
- ・プレコンセプションケア
- ・被害を受けないための対策
- ・ピルなどの知識や海外で進んでいる性教育について
- ・自分とは異なる体の構造や考え方を知ること
- ・妊娠について、年代に応じて自分も相手も互いを尊重するなど人間関係について
- ・質問の主旨からは外れますが、項目全て大事だけど全部学校にお任せは無理でしょう
- ・自分の身体が大切だという学び

- ・緊急ピルの存在について
- ・性=恥ずかしいことではないということの理解
- ・人生における体調の変化（生殖面）。男性にも生理や出産にまつわる体調の変化を知ってほしい
- ・生理痛やPMSの疑似体験は男女関係なく（教員も生徒も校長や教頭）全員が受けた方がよい（同じ女性であっても生理痛やPMSの度合いは人によって違いがあり、未だに生理痛やPMSの重さを軽んじる女性がいるため）
- ・相手の性別に合わせた性感染症の予防（例えば、男女の場合の性感染症の予防は学んだが、女性同士や男性同士の場合は学ばなかった）

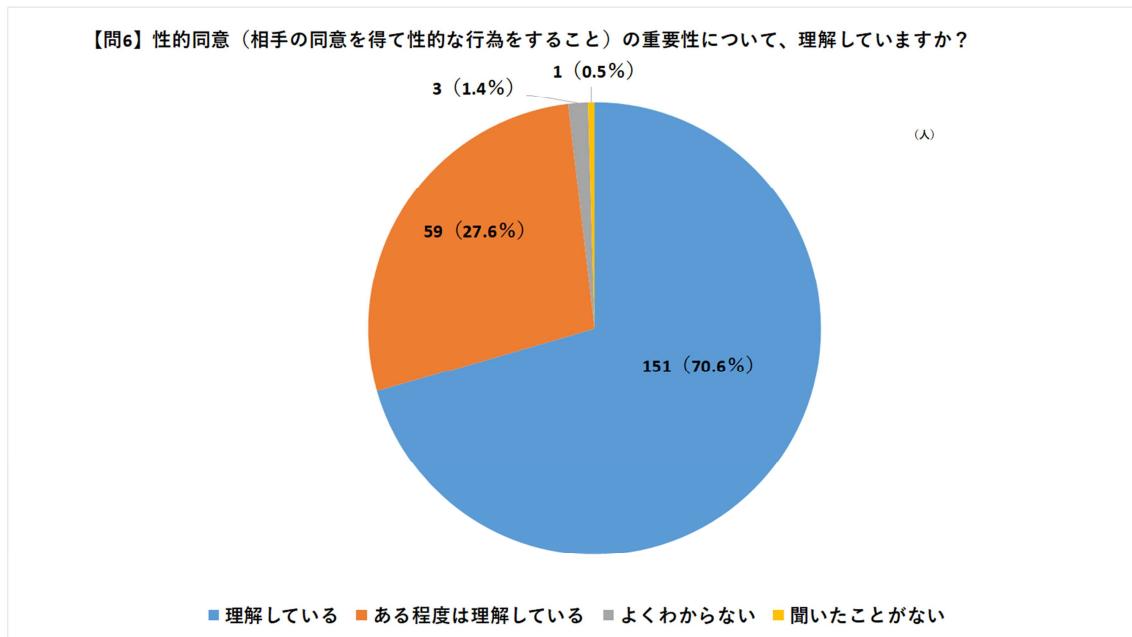
【問5】自分の性別、性のあり方（性的指向・性自認）について考える機会がありましたか？

【問5】自分の性別、性のあり方（性的指向・性自認）について考える機会がありましたか？



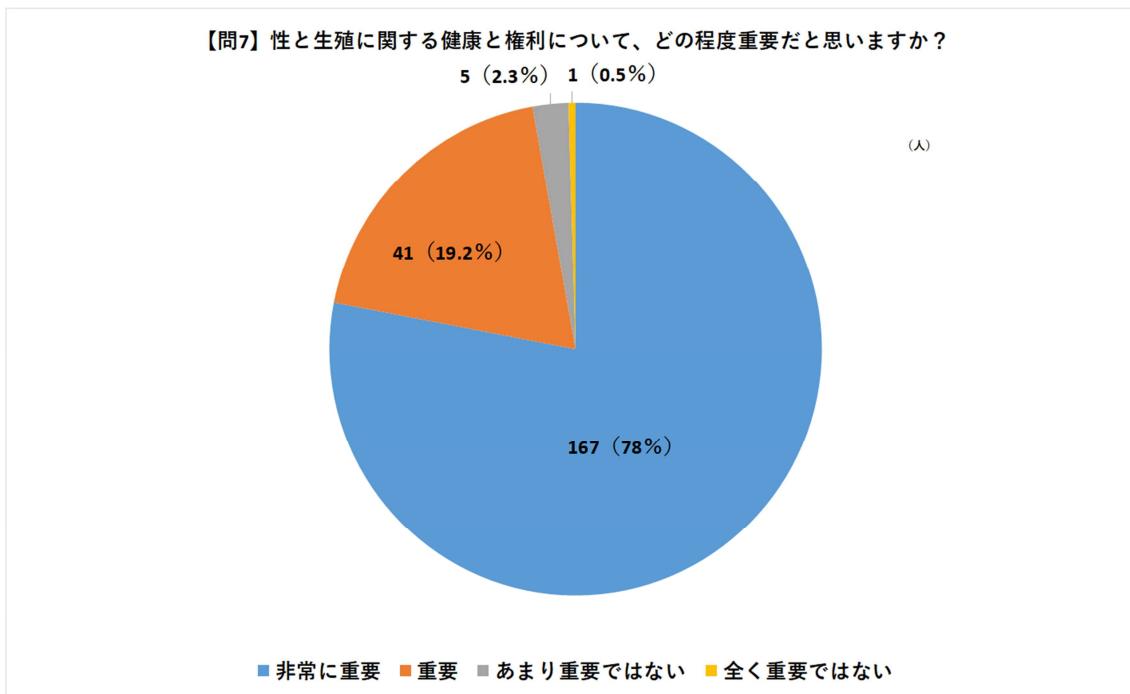
「よくある」と回答した人は22人（10.3%）、「時々ある」が70人（32.7%）、「あまりない」が82人（38.3%）、「考えたことがない」は40人（18.7%）でした。

【問6】 性的同意（相手の同意を得て性的な行為をすること）の重要性について、理解していますか？



「理解している」と答えた人が 151 人 (70.6%) と過半数を占めました。また、「ある程度は理解している」と回答した人は 59 人 (27.6%) でした。一方で、「よくわからない」が 3 人 (1.4%)、「聞いたことがない」は 1 人 (0.5%) でした。

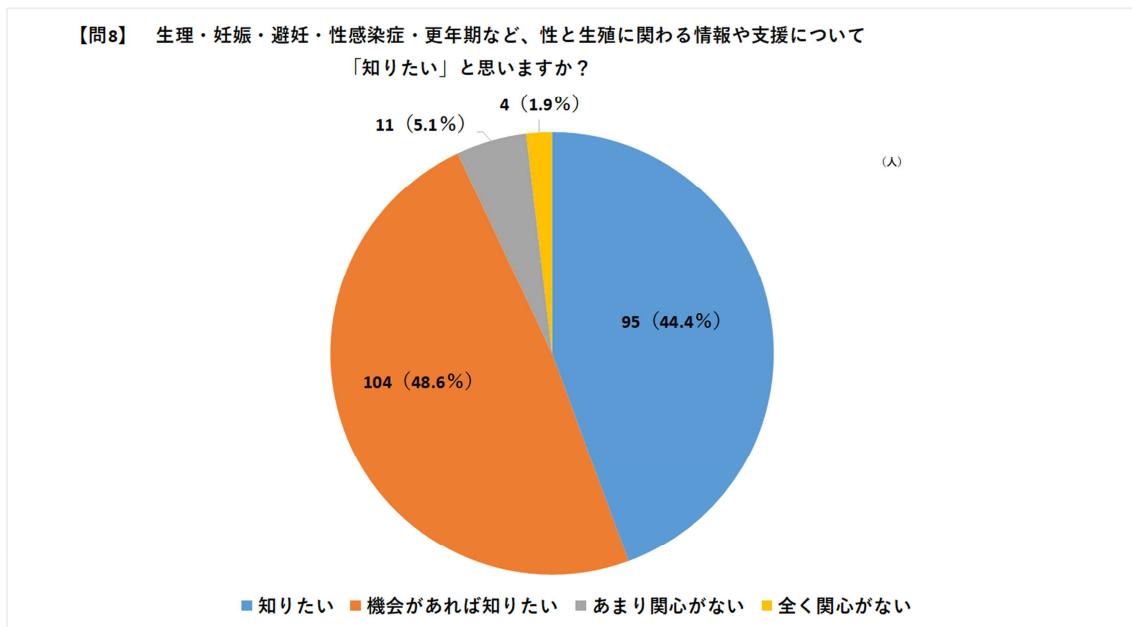
【問7】 性と生殖に関する健康と権利について、どの程度重要だと思いますか？



「非常に重要」と答えた人が 167 人 (78.0%) と過半数を大きく上回り、さらに「重要」と回答した人も 41 人 (19.2%) でした。合わせると約 97% の人が性と生殖に関する健康と権利を重視していることが分かります。

一方で、「あまり重要ではない」が 5 人 (2.3%)、「全く重要ではない」は 1 人 (0.5%) でした。

【問8】生理・妊娠・避妊・性感染症・更年期など、性と生殖に関する情報や支援について
「知りたい」と思いますか？



「知りたい」と回答した人が 95 人 (44.4%)、さらに「機会があれば知りたい」と答えた人も 104 人 (48.6%) に上り、約 9 割の人が関心を持っていることが分かりました。一方で「あまり関心がない」が 11 人 (5.1%)、「全く関心がない」は 4 人 (1.9%) という結果でした。

【問9】自由記述（任意）：「性やからだ、生き方に関することで、困っていること・気になっていることがあれば教えてください。」

以下は、アンケートで寄せられた回答を掲載しています。

《女性》

(19歳以下)

- ・自分の本当の性的指向が分からない。

(20歳代)

- ・出産による女性の変化（ホルモンバランスの乱れ、意識の変化、）と男性の変化のなさ（妊娠も出産もしない）による、意識のすれ違いをどのようにしてお互い理解し合えるか教えて欲しい。
- ・少子化対策が女性や LGBTQ の人権を侵害しないように気をつけないといけないと思います。
- ・低用量ピルの使用について。PMS（主に精神的な面）についてひどくて困っています。
- ・男性の加害性

(30歳代)

- ・性暴力の相談や性別不一致の相談を受けた時どこに繋げたらいいのか（1番近いジェンダークリニックは岡山なので）、どういう援助をしたらいいのか悩むことがあります。性暴力を受けたと被害を認めるのに何年もかかることが多いと思います。その時、社会生活は送っていて普通に見えていても、治療が必要な場合、同じ思いを持つ人が話せる場所や、カウンセリング先の案内など、支援もないであつたらいいなと思っています。特にカウンセリングについては、自費診療のことが多く生活の負担となっています。
- ・子どもが産まれてから、家庭での性教育としてプライベートゾーンについて自分で調べてやっているが、正しいのかどうか分からず。
- ・不妊・妊活・女性特有の病気など、大人になってから初めて知る情報をもっと子供のころから知る機会が欲しいし、大人になってからも病院を受診して知ることがあるので、その他の場所で情報を知れる機会が欲しいと思います。
- ・ノンバイナリーとして SRHR が尊重されず、行政上の性別に結び付けられてしまい、困っている。
- ・以前、自分が異性と関わった際に今思えば尊重されていない、また、性的な行為や関係を自分の望まない形で半ば強いられたと感じることがありました。その時から1年以上たった今、やっと問題を解決というか、まだ人に相談などを気軽にできる気持ちではないのですが、自分なりにいろいろと調べたりして知っているうと思えています。簡単に片づけられることはなくて、今後の自分の生き方にも影響する出来事だったと思いますが、自分なりに自分の体と心と付き合いたいと感じているところです。

- ・自分は母が産婦人科の看護師だったため、色々な相談ができたし、知識を得れたのでよかったですけど、年齢関係なくあまりにも情報を得る機会が少ない。学生の頃からしっかりと教育の場で正しい知識を教えていくべきだと思う。
- ・職場で周りに男性しかおらず、生理痛でしんどくなった時、どうしたら良いか困っています。現状は誰もいな場所を探して痛み止めを飲んでいますが、時によっては痛み止めを飲むと眠たくなることもあります、どうしたものかと思っております。質問から内容がズレてしまったら申し訳ありません。

(40歳代)

- ・更年期について
- ・生理痛は個人差があるため、意外と症状の軽い同性（母親含む）から理解を得られないこともあります。検診については、子宮頸がんや乳がんは健診で受けられることがあるが、卵巣がんは見落とされがちであること、発症率が女性では高いにも関わらず、人間ドック等では費用負担が必要な場合もあり、女性の病気に対して、男性を中心に補助や制度を考えているため、金額負担を求められたり、軽視されがちなのかと思うことがある。
- ・10代の子ども2人を育てています。今の学校では性教育が不十分なため、家庭でどう伝えればよいか悩んでいます。連日のように性暴力にまつわる事件が報道され、インターネット上にも過剰なほど性にまつわる情報があふれているのに、子どもたちが自分の権利や身を守る方法等について学校で学ばない現状に危機感を感じています。
- ・包括的性教育を進めるため、親子で学べる場が県内にもっと増えたらなと思っています。
- ・性暴力を肯定するかのような不快な広告がネット上で流れてくることがあります、若い世代にとって有害と感じる。未だにコンビニ等でも女性の水着姿が表紙の雑誌が売られており、女性の性が商品にされることが普通の環境になっていることも問題。性的同意の正しい意味合いについて、全ての年代の、特に男性に教育が必要と感じる。

(50歳代)

- ・体も自認も女性であるが、自称「ぼく」の時があり、多重人格か男性の部分があるのかと困ったことがある。子供の頃、母親に「男の子に負けるな」と教え込まれて育てられたせいもあるかと後から気づいた。
- ・自分が若い頃から、自分の性も体も生き方も自由に思う通りに選ぶことを誰にも邪魔されない人的環境で生きてきたので、誰もがそうであれば良いなあと思う。一方で、そうして自由に生きていくためには、もっと大きな枠組みでは他者に合わせたり配慮したりと、自分を控える事も最低条件になるだろうなとも思う。
- ・ある講座でセクシャルマイノリティーである講師が、学校などでの例えばトランスジェンダーの方への対応について「先回りして対応を決めないでほしい、1人1人求める配慮は異なるのだから、本人の気持ちを聞いて尊重してほしい」と話されていて、これはどんな人にも当

てはまる大事な視点だと感じた。「アライ」でいるためにこれからも気に留めたい。

- ・インターネット上で、真偽の不確かさ、戦前のような価値観で女性の人権を軽視するような記事を目にします。性教育がしっかりしていないと、これらの記事を鵜呑みにするのではないかと気になります。お互いを対等なパートナーとして尊重するためにも性教育は重要だと思います。
- ・性犯罪について、特に女性は服装に気をつけたり、行く場所や時間を気にしたりと、気にしなくてはいけないことが多すぎて、自分の選択肢までが制限されることがあります。安心して暮らすためには、犯罪者を生まないために幼い頃からのしっかりとした教育と、ハード面の整備、しっかりとした刑罰の制定を望みます。県外に進学している娘のことを日々心配しています。
- ・身近で不同意性交未遂の話を聞きました。セクハラもともなっており中年以降の学び直しが必要と感じています。
- ・情けない話ですが、「生殖」という言葉の意味がなんとなくとしか理解できていません。普段使うことがない（身近な言葉ではない）ので、自分とは関係のないことのように感じてしまいます。「性と生殖」という言葉をどのくらいの大人が理解しているのか…。

(60歳代)

- ・日本の避妊方法が世界から大きく遅れていること。中絶については、ありえないほど旧式で野蛮な搔爬が主流であることは恥すべきことだと思います。ようやく緊急避妊薬が薬局で買えるようになりましたが、中絶に関してはWHOが必須医薬品リストに入れている、薬品があるにもかかわらずなぜ多くの医師が採用しないのか不思議でなりません。なぜ日本の女性は医学の進歩を享受できないのでしょうか。
- ・性被害、性犯罪で心を病むことが適切に理解されにくい。女性が孤立妊娠、出産になって犯罪者になってしまふことに憤りを考えています。
- ・SRHRは人権であるのに、少子化対策のためや、プレコンと考えている男性県職員がいた。行政職員にも研修してほしい。

《男性》

(19歳以下)

- ・違うことを簡単に受け入れすぎることは人間の作用として普通ではないと思うが自分の軸と相手への尊重のバランスを教えて欲しい。

(40歳代)

・啓蒙することはすばらしいと思うが、目新しい言葉（SRHR、ジェンダー平等。。。）を次々に当てはめ、情報の押し売り的にされる印象を受ける。表面的には賛同しても、裏では拒否感を少しずつ感じる。手段と目的が混同しないような啓蒙方法も検討すべきと思う。

(50 歳代)

・生理休暇は認められているが、更年期障害の時はどうなのが知りたい。

(60 歳代)

・特に男性は興味や男としての見栄(ジェンダー)から入るので、学校でしっかり教えることが必要だと思います。男女一緒に学ぶことも必要だと思います。

《その他》

(50 歳代)

・自己決定権の尊重の弱さ

《回答しない》

(20 歳代)

・いかなる考えであっても、押し付けは不快であるのでやめて欲しい。こういう考え方方が正しいではなく、こういう考え方もあるという示し方をして欲しい。